

# 福竜丸だより

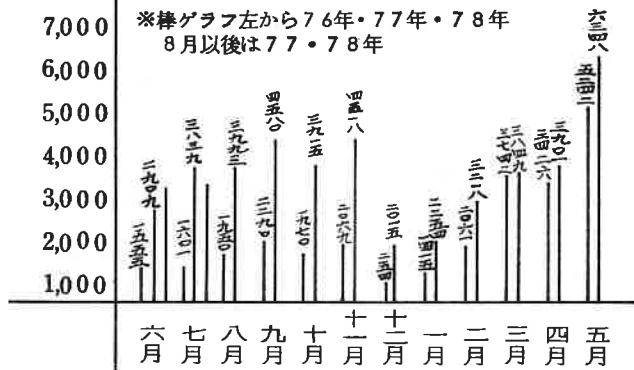
都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

## 酷暑にも負けない 来館者の増加

ことしは異常の酷暑とよばれて、毎日30度をこす日がつづきましたが、来館者の数は少しも衰えず、七月末までに八万一千を数え、いよいよ年内十万突破も夢ではなくになりました。七月下旬の学校の夏休みとともに、地方からの親子づれの来館者もふえ、



また、都内小中学校で夏休みの社会科研究の課題として福竜丸を選定しているところもあり、熱心な見学が目立っています。七月の主な団体見学 塩浜児童館、豊島区長崎保健所さくら会、江東区役所、平和行進団、南砂町保育園、辰己学童保育クラブ ※尚、七月末までの通算来館者数は、八一三六〇名に達しました。(グラフ参照)

**主張**  
**広島・長崎の悲劇とビキニ事件**  
78原水禁世界大会から  
地婦連、被団協など中央五団体のよびかけによる78核兵器完全禁止・被爆者援護・世界大会は、去る八月一日・二日の東京国際会議によって幕をあげ、八月五日・六日の広島大会、八日・九日の長崎大会によって、無事に全日程を終了しました。このたびの世界大会には、従来の世界大会とはちがった幾つかの特色がありました。第一に、大会参加者がこれまでにならぬ幅広い市民団体・個人によって占められていたことあります。平和協会も理事会の決定により、東京国際会議に三宅会長、広田専務理事、本多喜美評議員の三名を派遣し、広島大会・長崎大会に鹿田敏彦事務局長を出席させましたが、このよう正式の参加は始めてでした。第二に、このたびの世界大会では、広島・長崎の悲劇とともにビキニ事件が明確に表明されたこととあります。とくに、ビキニ事件は、被爆者や被爆者の子孫に与える影響が、これまで以上に深刻化していることが、東京国際会議第二日目の第一分科会「被爆者の援護と被爆の実相」の後遺の普及についてにおいて、基調報告者六名のひとりとして発言を許されたこととあります。(その内容は別掲のとおり) これらのことは、ビキニ事件が改めて内外の関心を博たしたことの証拠と思えますが、これまでの私どもの宣伝活動が多少とも効果のあったことを認めてよいと思えます。

盛況だった

7月21日夜

第11回 ビキニ事件と福竜丸を知る集い

服部 学立教大助教授が、ロッキード社のミサイル設計技師で、身をもって核兵器の恐ろしさを感じ、高級をふりすてて街に出て、核兵器廃絶を訴えているオールリッジ氏の著書を翻訳されたのを機会に、服部先生をお招きして「核兵器廃絶のための良心と行動」というテーマで、第11回知る集いを江東区亀戸で開催しました。

この集会は、78世界大会江東

区実行委員会との共催という形でひらかれましたが、30名をこえる若い人たちの参加があり、服部先生の講演のあと、真剣な質問もでて、近ごろにない活発な学習会となりました。

第29回理事会

ひらかれる

7月19日正午から

本郷・学士会館で、三宅会長、榎山副会長、広田専務、田沼理事の出席のもとに(神崎理事病欠)ひらかれた理事会では、当面の行動などが審議されました。

## 9・23 久保山愛吉 第五福竜丸 記念集会

第五福竜丸の無縁長久保山愛吉氏の亡くなった九月二十三日を記念し、江東区夢の島、第五福竜丸展示館前の広場(久保山記念碑前)で、ことしも午前11時から、記念集会在ひらかれる

こととなり、目下、その準備にかかっています。その詳細については、近く公表される予定です。なお、運営にご意見ある向きは、大至急お申し起しくください。

## 新版パンフレット

### 「第五福竜丸」

—好評・発売中—

◇美しい表紙・全文ふりがなの読みよさ。

◇定価二〇〇円 送料六〇円

(大量の注文は値引きしますので、ご連絡ください。)



## 編集後記

▽しばしば水の危機が伝えられる暑さのなか、遠く福岡、山形など地方から訪れる来館者を、頭の下がる気持ちで迎えます。

けられます。▽ことしは八月六日が近づいて新聞などに福竜丸やビキニ事件にかんする記事がのせられていますが、広島、長崎の悲劇と異なるように、ビキニ事件が考えられるようになった一つの現れとみられます。

▽また、インドネシア・マレーシアなど東南アジア諸国の学生諸君を迎え、わが展示館も国際的になったと責任を感じます。▽展示館に備え付けてある感想録にも、私たちの心を打つような記事が書かれています。展示館を守る苦勞をねぎらう暖い言葉がみられて、思わず元気づかれます。

「これは78核兵器完全禁止・被爆者援護・世界大会・東京国際会議の第二日目の第一分科会における発言の要旨です。」

世界の原水禁運動をリードしている日本の運動の原点が、一九四五年八月の広島・長崎の悲劇にあることは、歴史的事実です。同時にその運動が幅ひろい国民運動として燃えあがるきっかけとなったのが、一九五四年三月のビキニ水爆被災事件であったことも歴史的な事実です。ビキニ事件こそ日本の原水禁運動のもうひとつの原点というべきです。

広島・長崎の悲劇とビキニ事件とは、歴史的にも性格にもちがいがありますが、使用であれ、実験であれ、核兵器によって人類がその生命までおびやかされ、核兵器の恐ろしさを立証した点では、共通のものがありません。

ところが、広島・長崎の事件については、その真相は、その真相が、ビキニ事件については、ほとんど知られていないのが実情です。

第一に、ビキニ事件については、肝心のアメリカでも、日本でも、国民にはほとんど正確に真相が知らされていません。

第二に、その真相がかくされていることに便乗して、おどろくべきデマが横行しています。例えば、ビキニ事件は五四年三月一日に行われたアメリカ海軍の運搬可能なきれいな水爆の実験によって起されたもので、その被害船は第五福竜丸ただ一隻であり、それも警告を無視して立入禁止区域に入ったためであるとか、無線長久保山愛吉氏の死は、かれの放射能にたいする無智のために招いたものだ、日本人医師の技術の低いために起った輸血の失敗によるものなどという類のものです。

言うまでもなく、ビキニ事件は五四年三月一日から五月十四日まで、六回にわたる水爆実験

キャスル・テストにより太平洋のいたるところが汚染され、ビキニ島実験はその一部をなすブラボー爆弾を島上五〇米の鉄塔の上に固定した運搬不可能のきかない水爆であり、その被害は予想をはるかに超え、被害船舶は日本船だけでも六八三隻と日本政府が公表しています。また、福竜丸のみではなく、立入禁止区域に入った船は一隻もなく、福竜丸は明らかに公海上で被災し、乗組員二三名は全員放射能に冒され、久保山さんの死もその結果であることは疑い余地もありません。

第三に、ビキニ事件をめぐる、今日、なお、追及すべき問題が幾つかあります。ビキニ水爆実験はアメリカの信託統治領内で行なわれていたが、それは住民に多くの被害を与え、その安全と福祉をふみにじるもので、明らかに国連憲章違反ではないかという点であります。

また、信託統治

### もうひとつの原点 ビキニ事件とヒバクシャ

専務理事 広田重道

光を与えるためにも、ミクロネシアなど核実験を行った島嶼の放射能の徹底的調査の必要があり、国連にむかって調査団の派遣を強く要請することを提唱します。

さらに、ビキニ事件に遭遇した日本人漁民や船員の検診についても、当時の一時的に行われたものではなく、その経続的な追跡調査を行うべきことを政府に要求します。これは一九五五年春にアメリカから日本政府に二〇〇万ドル(当時の七億二千万円)が見舞金として支払われ、それと引き換えに将来にわたっての賠償の請求を行わな

いことを日本政府が同意したとなどとともに、明らかにすべきであります。

**来館者の声から**



わが家の八月は戦争に関する本を読むようにいつの間にかなっています。本棚にも関係のある本が目につくようにと並びかえておきます。そうすると長女(六年)次女(四年)はもちろん長男(二年)までが読んでいます。子供は子供向きに親は親向きに、それぞれ読んでいます。

しかし、どうやら子どもたちがの方が読書量が多いようです。最近刊行された「原爆の絵」は、家族みんなで見ました。長男は恐しさのあまり、にげ出しました。親の方も戦争はそう身近に経験しませんでした。「戦争」というものの恐ろしさを教えなければと夏休みの読書も工

**ハム声**

この欄への読者の自由な投稿を歓迎。  
四百字以内、住所・氏名(紙上匿名は自由)

ミクロネシア地域の放射能汚染

去る八月五日付朝日新聞(夕刊)「死の灰・米もや」と認識という表題で、戦後・核実験の行われてきた太平洋上のジェモ・メジト両島のほか、ビキニ、ロンゲラップ、ロンゲリク、リキエフ、タカ、ウチリクなど十一の環礁にたいする残存放射能の調査を、来月から本格的に開始すると発表しました。

かねて、ビキニ島のヒバクシヤの徹底調査を求めてきた平和協会にとつて、遅すぎたとはいえ、一応の朗報として歓迎したいが、若干の危惧の念も禁じ得ません。

第一に、調査は純粋に科学的に行われ、何らかの政治的干渉とか外交的配慮などによって妨害されないことが望ましい。第二に、米政府の調査であったも、米国の科学者のみではなく、外国の科学者の参加が望ま

夫しているつもりです。こんな親の気持ちもわからない長男は水中花火大会をみて、「おかあさん、戦争みたいだね」と言うんです。本当にガッカリです。

テレビの影響は本当にこわいものです。くり返しくり返し、核兵器の恐ろしさを教えていかねばと思っています。

山形 角川ヨシ子

私は今まで、原爆のことでは、本などで知るばかりで、本当の原爆のえいきょうは見たいことはありませんでした。今日八月六日の日、始めて水ばかりのえいきょうをうけた物を見ました。

第五福竜丸の乗組員の「原水ばくのひがしいしゃはわたしをさいごにしてほしい」と言いのこした久保山さんの言葉が心にいんしょうにのこりました。

(娘) 敦子

しい。できれば日本人科学者の参加を認めるべきであろう。

第三に、米政府はその調査結果を速かに全世界に公表して、従来、核兵器実験などの公表については、しばしば秘密主義に終始し、心ない人びとによるデマを許す結果となっていたことを痛いほど知らされてきています。

私もとしては、今回のアメリカ政府の調査が文字どおり「徹底的」に行われるよう祈るものです。

(なお、この点については八月九日付朝日新聞「声」欄の広田重道専務理事の投書参照)

### 78「核兵器禁止をねがう科学者フォーラム」開かれる

七月二十九日(土)午前十時、神田・学士会館 二一〇号

江口朴郎、小川岩雄、小野周、田畑茂三郎、三宅泰雄の各氏およびかけによる科学者フォーラムがひらかれたが、これには外務省国連課(新設)の渡辺課長が出席し、政府の核問題にかんする国連への態度についての説明があり、これをめぐって活発な質疑や意見の交換が行われました。なお、協会からは広田専務理事が出席しました。